

令和 7 年 9 月記者会見

質疑応答の概要

①第 15 回全国発酵食品サミット in とみやの開催

Q.

先日のわくわくミーティングでこのサミットの盛り上げ方を考えようというものがあり、様々なアイデアが出されていましたが、実際に採用されて実施するアイデアがあれば教えてください。

A.産業観光課長

わくわくミーティングでは、サミットで発酵を使ったメニューを提供するというアイデアなどが出ました。また、発酵甲子園というものを予定しており、ミーティングに参加した富谷高校の生徒もピッチコンテストに出ることになりました。様々な発酵食品を作るワークショップも企画していますので、わくわくミーティングを通してサミットに反映していくこととしています。

Q.

これまで 3 回ほどプレイベントなど開催してきましたと思いますが、手応えや機運の高まりなど実感はありますか。

A.市長

1 回目プレイベントの小泉武夫先生の基調講演は大きな反響で多くの皆さんにご来場いただき、ここから期待感が高まっていきました。2 回、3 回と形を変えて行いましたが、10 月 11 日、12 日に全国発酵食品サミットがあるという期待感が皆さんから伝わってきています。市民の中でも、全国発酵食品サミットの認知度・期待感が高まってきていますし、本市のみならず県内でも開催について声をいただく機会が増えてきましたので、県全域に期待感が高まっていると感じています。

Q.

市長の思いとして、富谷の発酵文化の発信など、何かこの発酵食品サミットに関して期待することを具体的に教えてください。

A.市長

今回の発酵食品サミットでは、これまで開発してきた商品を販売・お披露目する予定であり、新しい特産品のスタートにもなり、地域の発酵食品や発酵食品料理を掘り起こすきっかけになると思っています。富谷のみならず、県全体で宮城の食文化、発酵食の文化をこの機会に掘り起こせればと思います。また、今回、発酵甲子園第 1 回目があり、全国から高校生が

ピッチコンテストでこの富谷の地に集まるので、地元の発酵食を掘り起こしていただくことを期待しています。また、この発酵甲子園が2回、3回と今後につながっていくような第1回にしたいと思っています。

Q.

12日には街道まつりも開催され、この2日間たくさんの人が富谷に来ると思いますが、訪れた方々にどのように楽しんでほしいですか。

A.市長

今回の発酵食品サミット、街道まつりを通して富谷の地に足を運んでいただき、将来富谷に住みたいと思ってもらえるような機会になればと思っています。当日の駐車場は富谷小学校のグラウンドやスポーツセンターもあります。また、シャトルバスを泉中央と富谷総合運動公園から出しますので、万全の受け入れ態勢で皆様のご来場をお待ちしています。

④市制施行9周年記念「花火プロジェクト」の開催

Q.

富谷市制施行9周年ということで、これから節目となる10年目に向けて何か思いなどあればお聞かせください。

A.市長

平成28年10月10日、町から市へ新しい歴史がスタートしました。その際、市になることが目的ではなく、どんな市をつくるかが大切だということで当時町民の皆さんから声をいただき総合計画を策定し、それを一つ一つ実行してきた9年間でした。その一つ一つの取り組みが、様々な自治体評価ランキングで連続県内第一位、東北第一位という高い評価をいただき結果につながったと思いますし、その要因の一つが市民力の高さであり、市民の皆さんがいきいきと市民力を発揮できることが富谷らしさだと思っています。いよいよ来年は10周年という大切な時期でありますので、この10年を振り返りながら、しっかりと準備し新たな10年をスタートできるようにしたいと思います。

その他の案件

Q.

設立を予定している（仮称）東北医科薬科大学富谷メディカルセンターについて、9月1日に推進本部を発足し、10月に覚書、2026年4月に基本協定を予定していると以前お聞きしましたが、スケジュールの変更はありませんか。また、覚書に関する進捗状況も教えてください。

A.市長

9月1日に推進本部を設置し、合わせて推進室も保健福祉部内に新たに設け、準備をスタートさせたところです。現在、東北医科薬科大学と覚書に向けて調整をしている段階です。ま

だ、覚書の日時については確定していません。

Q.

予定地の周辺環境などについて教えてください。

A.市長

周辺については、まだ（仮称）東北医学科大学富谷メディカルセンターがどういう形で開設するかが固まっておりませんので、それが固まり次第、周辺との調整が必要に応じて出てくると思います。なお、明石台東地区の造成など、新しい住宅は継続して販売していますので、日々、新しい住宅が建ち、人が増えている状況です。

Q.

知事選に向けて多選のあり方が一つの議論になっていますが、多選の是非について市長の考え方と、ご自身は何選までという制限を設けるような考えがあるか教えてください。

A.市長

私は以前 3 期という区切りを挙げていましたが、公約を達成するには経験、時間を要します。また経験することにより、効果的な財源の獲得や様々なつながり、国や県との関係性も含め、ある程度経験が生きていると思っています。一期 4 年というのは本当にあつという間で、私もやっと最初に公約に掲げた図書館が今年度中に竣工して来年オープンということで、一つのプロジェクトでこれだけ時間が掛かります。病院も町の時代からの念願でしたし、歴代の町長たちも望んでいたことがやっと見えてきたというところでもありますので、そういった意味では、首長としてやるべきことがあるかどうか重要だと思っています。何期が適切かということではなく、置かれている状況によって自分自身で判断して、そして 4 年に 1 回我々は選挙で審判を仰ぐわけですので、最終的にそれを良しとするかどうかは、住民の皆さんの判断だと思います。

Q.

村井知事が土葬に関して、全市町村長に連絡して否定的な見解だったのでやめるという話がありましたが、市長には、いつ、どのような形で連絡が来て、どのような返答をしたのですか。

A.市長

日にちは定かではありませんが、お電話をいただいたので、本市では以前から要綱で焼骨に限るとしており、そもそも難しいということをお答えしました。